

横浜にぎわい座 令和4年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	垣内委員	加世田委員	廣瀬委員	吉永委員
Ⅰ 文化事業 1～3	<p>【評価する点】</p> <p>コロナ禍が続く中、創意工夫を凝らし、公演だけでなく展示やアウトリーチなどを含め多様で多彩な事業を展開したことは高く評価できる。（特に20周年記念事業は時期的にも恵まれ（コロナ感染爆増時期でなかった）、大きな成果を残し、賑わい座の存在のアピールにもなったと思われる。若手の登竜門の継続もよかった。ただ、誘客力も一つの選択基準とはなろうが、中長期的視点も望みたい。費用をかける部分とできるだけ回収する部分のバランスは難しいと思うが、人材育成にはかなり時間がかかることも事実である。あわせて学校へのアウトリーチは人材育成や将来の観客創造の観点からも大変重要な事業であるが、学校もコロナ禍で状況が大きく変動して、アウトリーチも大きな困難が伴ったであろうことを考えると、主催者側の負担も大きかったと思われる。その中で、学校における体験、公演が目標値には達しないまでも、継続実施できたことは、次につながるものと期待したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>コロナ禍による人流は、概ね、令和2年度が底で、令和3年度を経て、令和4年度コロナ禍前に戻りつつある。コロナ禍は社会全体に大きく影響しており、運営者が課題として認識するように、（落語は比較的戻りが早いなど）分野によって、また（高齢者はやや戻りが鈍いなど）世代によって影響も異なると思われる。客観的な状況を直視しながら対応を工夫するという運営者の姿勢は高く評価するとともに、世代交代や新たな観客の取り込みなど、今後も注意深く観察し、その知見を活かした事業展開を望みたい。また、総利用者数約7万6千人ということで、団体客の誘致を含め、今後の誘客についても努力を望みたい。また、退職後の職員がいわゆる市民サポーターとして勧誘などの下支えを担っているとのこと、継続的な連携を期待する。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 開館20周年記念事業では、にぎわい座ならではの演者による公演を実施し、入場者数を大きく増やすことができ、ボリューム感ある事業としました。 鉄道開業150年にあわせたテーマ設定の演芸会や、寄席文字講座や公演形式の紙切りワークショップなど、大衆演芸に触れる機会を増やす取り組みがされており、その企画力を評価します。 ホームページでは、電子根多帳や芸人伝、芸能散歩など、多彩な情報を掲載しており、にぎわい座だからその工夫がみられます。 展示・館内装飾では、目標を大きく上回る回数で企画展等を実施したり、落語にとって大切な季節感の演出をされました。 登竜門シリーズのメンバー芸人が受賞&真打昇進するという、これまで育成に力を入れてこられた成果の一つとして現れたことと思います。企画公演に多数起用したり、新作落語を中心とする会を開始したり、若手育成の継続的支援を評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙切りワークショップのような芸能に触れる機会創出、芸能者の発掘・育成の取組に期待します。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 開館20周年記念事業を4、5月に実施し、独自企画で多数の入場者数があったことを評価します。 展示・演出において、にぎわい座と地域の20年を回顧する企画で目標を大きく上回る実績をあげたことを評価します。 「こども寄席」2公演実施、「寄席体験プログラム」7日間実施（19小学校参加）ほか寄席文字、紙切りなど多彩な体験の場を提供した実績を評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>研究されている外国人向けの企画事業の実施を期待します。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、目標とほぼ同数の公演を実施したこと。 開館20周年記念公演を企画・実施し、入場者数の大幅な増加という成果を挙げることができたこと。 横浜に関連する公演を実施し、地域のステークホルダー（飲食店等）との共存共栄を図ることで、地域全体の発展に寄与する活動に積極的に取り組んでいること。 こども対象の寄席や講座など、次世代のファン創出に積極的に取り組んでいること。 「アウトリーチ」や「中学生の職場体験受け入れ」に積極的に取り組んでいること。 若手芸人育成に成果を挙げることができたこと。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「登竜門シリーズ」について見直しを図られているとのことですが、令和4年度の成果や課題を踏まえて、令和5年度では更なる改善を図っていただければと思います。 自己評価にある「落語以外の芸能の不振が顕著」であるという課題について、具体的な解決案を提示し、実行していただきたいと思えます。 寄席体感プログラム、学校プログラムについて、自然回復を待つだけでなく、現在のニーズに合わせたより魅力的なプログラムの企画・実施を期待します。 育成対象の若手芸人に長期にわたり横浜にぎわい座への貢献意欲を持っていただくための取組みを期待しています。
Ⅰ 文化事業 4～5	<p>【評価する点】</p> <p>コロナ禍の影響の中で、状況に応じてやり方を変える等柔軟性をもって、地域の賑わいづくりや、開かれた劇場を目指した各種取り組みに積極的に取り組んでいることは高く評価できる。野毛名物落語会は、食文化と伝統芸能の親和性の高さを感じさせるもので、魅力的である。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>コロナ禍で重要性を増したオンラインの活用であるが、動画配信のようにハードルが高いものから、広報ツールとして実際に有用性を増しているものまであり、今後、効果を実証しながら、できるところから活用を推進されたい。これまで公演情報等のアーカイブ化（電子ネタ帳）も着実に進められているようで、（商業ベースではなかなか難しい事業なので、公立劇場として）活動の継続を望みたい。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響がまだ残るなかでも、野毛大道芸の館内実施協力、野毛名物の落語会開催、野毛飲食店の紹介協力など、可能なことを工夫して実施されました。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在取り組まれている「外国人客に向けた企画・研究」については、具体的にどのような調査等取組をしていくのかも含め、にぎわい座としての方向性を検討されることを期待します。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域のにぎわい創出のため関係近隣団体との積極的な連携活動を評価します。 他施設との連携で大衆芸能以外の共催事業の実施実績を評価します。 シニアや障がいのある人が大衆芸能に親しめる環境作りのため職員研修を実施されたことを評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>地域での存在アピールのため、最寄り駅周辺および最寄り駅からにぎわい座までのアクセス路ににぎわい座の所在を表示する看板を増やす等の検討を期待します。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「野毛飲食業協同組合」等の地域との連携を図っていること。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> シニア層や障がいの者の方々への割引や安心して来場いただくような取組みは今後も継続していただきたいと思いますが、これらの方々にとって魅力ある企画（ワークショップなど）があるとより良い取組みになるのではないかと思います。 大衆芸能を外国人のお客様にも楽しんでいただけるよう、より積極的な取組みを期待しています。在日大使館職員による施設見学を受入れて感想をヒアリングされたとのことですが、単発のヒアリングに留まるのではなく、より幅広くニーズを収集しながら、外国人のお客様向けの（もしくは対応した）公演やワークショップなどの企画を立てていただきたいと思えます。インバウンド関連の団体や（横浜市関係）部署とも連携されてみてはいかがでしょうか。
Ⅱ 施設運営	<p>【評価する点】</p> <p>概ね目標を達成しつつあると思われる。大ホールの稼働率は全国平均を超えているが、小ホールについてはまだ伸びしろがありそうである。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>多用な事業を多彩に展開する賑わい座は、スタッフの専門性に加えて、マルチタスクが要求されると思われる。前年同様、コロナ禍により感染対策業務などが恒常的に派生してくる中ではあるが、組織内の人材育成、配置に一層の工夫を望みたい。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化活動の場として活用されるよう、ホール見学会やバックステージツアー等を実施し、利用率回復に努められました。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引続き、のげシャワー等の利用率向上の取組に期待します。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> バックステージツアーなど寄席囲いを使用した公演前後のホール活用を評価します。 組織的な組織運営のための職員スタッフに対するさまざまな研修実施を評価します。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題とされている「にぎわいスタッフ」の確保は来場者対応の観点から重要事項と考えます。サービス維持向上のため様々な方策の検討を期待します。 	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の使いやすさや快適さについての来館者アンケートの結果が高評価であること。 利用者施設見学の回数が多いこと。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> にぎわいスタッフの高齢化が今後一段と進むと思われそうですが、身体的な負担を軽減するための業務改善や、やりがいを持っていただくために主体的に施設運営に関わっていただくなどのマネジメント上の工夫により、安定的な人員の確保に努めていただきたいと思えます。 小ホールの利用率向上に向けて、自然回復を待つだけでなく、アンケート結果の分析結果を踏まえて、利用者の利便性を追求していただくことを期待します。

横浜にぎわい座 令和4年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	垣内委員	加世田委員	廣瀬委員	吉永委員
目 施 設 管 理	<p>【評価する点】</p> <p>安全管理を徹底し、小破修繕も適切に行っているように思われる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>施設の経年劣化は止まらない。20年経過した中で、運営者だけでなく、設置者との情報共有を密にしながら、適切な大規模改修等の計画を立てるべき時期に来ているのではないかと思う。多くの誘客のある施設なので、定期的な点検はこれまで以上に注意深く行って貰いたい。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>すべての来館者が安心・安全に利用できるよう、日々適切な確認を行い、完全管理の行き届いた運営をされました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>運営側では対応しきれない設備の経年劣化については、起こりうることと想定し、横浜市と早めに協議されることを期待します。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>施設の維持管理について法令に基づいた適切な対処実績を評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>20年経過した施設の利用環境維持向上のためさまざまな方策の検討を期待します。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>設備等の経年劣化についての把握が適切に行われていること。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>限られた中での運営ではありますが、横浜市と丁寧な協議を行い、施設や設備の延命化を図っていただきたいと思います。</p> <p>可能な範囲で施設・設備のバリアフリー化に取組んでいただきたいと思います。</p>
収 支	<p>【評価する点】</p> <p>コロナ禍にあっても利用を増やし収益を上げたこと、経費を節減する努力を継続したことは評価できる。大型の助成金獲得もこれまでの努力の成果と言える。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>予算構造を見ると、人件費や光熱水費など、運営者の努力でカバーできないような経費が上がることに對し、事業費や清掃、日常管理費などを抑制してバランスを取ろうとしているように見える。経費の節減は今後も必要であろうが、顧客サービスの低下につながらないよう配慮されたい。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>共催事業の誘致等に積極的に取り組み、目標を上回る利用料金収入を得ることができました。</p> <p>舞台スタッフの配置を見直し人件費の抑制につなげたりと、工夫ある経費削減に努められました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>予算にはなかった大型助成金を得られたことは、本年度の場合は、収支バランス上助けになったと思います。次年度以降の事業収入と助成金などその他収入のあり方について、検討されることを期待します。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>コロナ禍や物価高に對応するため文化庁等からの外部資金を獲得し、黒字収支としたことを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>舞台スタッフの人員見直しが舞台上の安全や公演内容の質の維持に影響がないか検証と検討を期待します。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>収支均衡に向けた不断の努力をしていること。</p> <p>利用料金収入の達成率が115%と、目標を大幅に超えた収入を得られたこと。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>自己評価では「経費削減策は限界に近づいている」とのことでしたが、その通りだと思います。食品販売の再開に向けた収入増が期待される場所ですが、総合的な収入増に向けた積極的な取組を期待しています。</p> <p>今後も光熱費の高止まりが見込まれると思います。長期的な観点からどのように対応していけばよいか、引き続きご検討いただきたいと思います。</p>
総 括	<p>コロナ禍、ウクライナ侵攻、気候変動も含め、外部要因の激変の下で、柔軟かつ機動性を持った事業展開がなされていると評価したい。しかしながら、高騰する人件費、光熱水費、物価上昇を運営者の努力のみで吸収することには無理があると考えられる。また、人材育成や地域貢献といった費用の回収につながらない公益性の高い事業と、かなりの収益が見込める人気の公演事業とのバランスをいかにとっていくのか、運営の工夫もさきながら、制度的制約(貸しホールを伝統芸能優先とするなど)についても、現状を踏まえて、今後検討する必要があるのかもしれない。あわせて、コロナ禍で浮かび上がった課題は何か、どう対応するか、特にオンラインのさらなる活用を含め、検討してほしい。</p>	<p>コロナ禍の影響が残るなか、利用率向上に努め、様々な工夫ある事業展開をされたことを高く評価します。</p> <p>特に開館20周年記念事業や野毛地区との連携事業は、これまでの20年の蓄積が表出した、にぎわい座ならではのものではあったと思います。</p> <p>にぎわい座の素晴らしい点の一つとして、若手育成に積極的に取り組まれていることがあります。本年度は、真打昇進や受賞者輩出と嬉しい成果がありました。芸能者が成長していくには「場」が大事ですので、引き続き、手厚く取り組んでいただきたい。</p> <p>まだ子ども向け、学校向けのプログラムには展開の余地があると思います。収益構造の中で大幅に増やすことは難しいかもしれませんが、より多くの次世代に向けた文化芸能に触れる機会創出に期待します。</p>	<p>コロナ禍や電気代ほか諸物価高の期間において独自企画による開館20周年事業を成功させ、あわせて大衆芸能の普及と愛好者拡大のため寄席体験プログラムや各種ワークショップを行うとともに、地域関係団体との連携を深め様々な共催事業を実施して地域のにぎわい創出に貢献したことを高く評価したいと思います。</p> <p>今後は20年経過した施設の安全環境の維持と、コロナ後に増加が予想される訪日外国人向け企画の実施を期待します。</p>	<p>全体的に、コロナ禍の中でも、来館者、演者、スタッフが安心して利用できる施設運営に努められたことは高く評価できます。社会がコロナ禍前の状況に戻りつつある中で、コロナ禍前の運営体制に戻すのではなく、社会の変化を見据えながら、より一層の発展的な取組を期待しています。これ以上の経費削減は難しく、収入増を図っていくしかないと思われます。スタッフの方々のワークライフ・バランスや挑戦する風土の醸成に考慮いただきつつ、収入増に向けた積極的な取組を期待しています。また、引き続き、横浜にぎわい座が主導する大衆芸能の国際化や子どもの創造性教育に期待しています。</p>

令和4年度 横浜市芸能センター(横浜にぎわい座) 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
1 大衆芸能に係る公演の企画・実施と情報の収集・提供(使命1)	1 幅広い大衆芸能の演目について、市民ニーズに応えた多彩な構成で魅力的な公演を常時、企画・実施する	□横浜にぎわい寄席	84回	84回	・コロナ禍の影響で短い時間の公演が好まれることと、支出を減らすために出演者を一人減らし、公演時間も2時間としました。 ・出演者入院による公演中止3回(4、5、6月の円楽独演会) ・出演者入院による公演変更1回(11月の権太楼独演会) ・乗客が課題の演者について公演数の見直しを行いました。 「柳家やなぎ勉強会」を開始しました。	【成果】 ・開館20周年記念事業として、長年にわたり当館に出演している人気演者を集めた公演を4、5月実施。柳家喬太郎独演会では横浜港開港150年の際に創作を委嘱した落語「純情日記港崎篇」をリニューアル公演。野毛名物を広く知らせる「野毛名物の落語会」を3回実施。終演時刻を飲食店の夜の営業時間に合わせるなどの配慮をしたほか、ロビーで名物や名所の告知を行いました。登竜門シリーズでは集客力の低下している演者の公演を減らす一方で、注目を集めつつある人気若手落語家、柳家やなぎの公演を開始。真打昇進とともに注目度や人気度が上昇中の蝶花楼桃花の真打昇進披露公演を開催。鉄道開業150年に合わせて「鉄道好き」をテーマにした演芸会を開催。展示は経費を自己資金から捻出する必要がありますが、演芸専門館としての発信は今後益々重要と考え、目標をはるかに超える実績数を達成しました。 【課題】 年度後半から徐々に客足が戻りつつありますが、高齢者の中には従前のように来館できない人たちが一定数存在すると感じます。それに代わり、新たに来館される方たちも現れており、出演者の世代交代も進んでいることも受けて、演者の代替わりも行っていく必要があります。子ども寄席等、若年層向けの事業は家族などの判断で回復が遅れています。落語以外の芸能の不振が顕著です。また、展示やHPの充実が次代の鑑賞者拡大のためにさらに重要になると考えています。	【評価する点】 ・時勢により変化する新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインへの対応や感染症拡大防止対策を実施しながら、出演者入院による公演中止や開催日延期、公演時間を短縮した寄席を開催など臨機応変に対応し、コロナ禍でも安全に配慮した運営を行いました。 ・横浜港開港150年の際に創作した落語のリニューアル公演を企画実施するなど、魅力ある公演を安定して開催しました。令和4年4月に開館20周年を迎え、記念事業として4・5月に人気演者を集めた公演を企画・実施し、入場者数が著しく向上したことを高く評価します。 ・大人対象の「寄席文字講座」、子ども対象の「大神楽曲芸講座」、野毛地区および横浜商科大学主催の「野毛まちなかキャンパス」での講座、公演形式で紙切りのワークショップ「林家楽一 紙切りの世界」を実施し、横浜の大衆芸能の拠点として、大衆芸能と市民が触れ合い、関心や興味を持つ機会を提供し鑑賞者の拡大を図る事業が実施できました。 ・積極的な企画公演の若手起用や登竜門シリーズから真打昇進者や文化庁芸術新人賞受賞者を輩出するなど若手演者の次世代育成に寄与しました。 【更なる取組を期待する点】 ・コロナ禍からの回復に合わせて、多彩な構成での安定した公演やユニークな企画による更なる鑑賞者の拡大に繋がる計画・運営を進めてください。 ・これまで見合わせていた学校等の団体観覧が戻りつつある状況の中、更なる団体客の誘致や地域との共催事業の実施が増えることを期待しています。 ・次世代に大衆芸能をつなげていく取組の継続をお願いします。
		□企画公演	120回	122回			
		□登竜門シリーズ in のげシャレ	25回	21回			
		□令和4年4月に開館20周年を迎えるにあたり、当館の目玉となっている公演を集めた、ボリューム感のある記念事業を行います。	実施	実施	4、5月に人気演者を集めて実施。2ヶ月間月平均入場者数は、年末年始を除く8か月間(6月～11月および2月～3月)に比べ約1,000人多く、成果ができました。12月、1月の平均入場者数は、公演数が多いこととお客様の関心が高い時期のため4、5月とほぼ同数でした。		
	2 大衆芸能と市民が触れ合い、関心や興味を持つ機会を増やし、若い年代を中心に鑑賞者の拡大をはかる事業を行う	□趣味をテーマにした落語会、演芸会	2回	3回	野球、鉄道、キャンプをテーマにした演芸会を実施しました。		
		□子ども寄席、寄席体験プログラム、学校単位の団体鑑賞	14回	10回	「子ども寄席」は横浜にぎわい寄席の番組をお子様でもわかりやすい内容で2公演開催しました。「寄席体験プログラム」は寄席鑑賞と所作の体験をするプログラムで中区・西区の小学校19校が参加し7日間実施しました。「学校単位の団体鑑賞」は横浜にぎわい寄席に中学校の団体鑑賞が1回ありました。		
		□アウトリーチ	2回	3回	8/20開催延期となった「いしよこ寄席」を3/25に実施しました。		
		□ワークショップ、講座	5回	5回	大人対象の「寄席文字講座」、子ども対象の「大神楽曲芸講座」を実施。野毛地区および横浜商科大学主催の「野毛まちなかキャンパス」で1講座を受け持ちました。公演形式で紙切りのワークショップ「林家楽一 紙切りの世界」を初めて実施しました。		
	3 主催公演をデータベース化し、大衆芸能に関する情報とともに広報に役立てる	■野毛地域の協力を得て広報物を配布するとともに、各種媒体への働きかけ、オウンドメディアの積極的な活用による大衆芸能の魅力を発信します。	通年	実施	3月にメディア懇談会を開催し、新聞社やテレビ局など約10社に参加いただき、次年度の取組みを中心に説明をしました。		
		■開館以来の出演者・演目をアーカイブし、出演者の経歴や演目解説も記した「電子根多帳」をホームページ上で公開します。	通年	実施	8月の選定評価委員会でのアドバイスを踏まえ、パンナーに説明を追加して分かりやすく更新しました。		
	4 展示・演出	□常設展、企画展のための調査、研究を進めるとともに、コロナ禍の状況に留意しながら展示替えを行います。	3回	9回			
		□年間を通じて館内装飾を変え、落語にとって大切な季節感を演出します。	10回	12回	職場体験の中学生による館内装飾も含め、滞在が楽しくなる演出を行いました。		
2 大衆芸能の体験の場の提供(使命2-1)	1 大衆芸能をはじめとした文化芸術活動の体験の場の提供	□寄席文字ワークショップ	1回	2回	【成果】 寄席文字、紙切りについては成人も対象とし、高評価を得ました。 【課題】 寄席体験プログラム、学校プログラムはコロナ禍の影響がまだに続いています。令和5年度には回復が期待されます。		
		□水戸大神楽曲芸ワークショップ	1回	1回			
		□紙切りワークショップ	1回	1回			
		□寄席体験プログラム(再掲)	(I文化事業3-2再掲)				
		□学校プログラム(再掲)	(I文化事業3-2再掲)				
		□野毛まちなかキャンパス	1回	1回		3年ぶりに実地で開催しました。	

令和4年度 横浜市芸能センター(横浜にぎわい座) 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

3 子どもたちや若手演者をはじめとした次世代育成(使命3)	1 大衆芸能を支えていくような若手芸人育成	□登竜門シリーズ in のげシャレー(再掲)	25回	21回		【成果】 柳家やなぎ公演を開始(再掲)。若手芸人育成では、企画公演に若手を89公演、125組を起用。創作活動にも力を入れ、「宝井琴鶴 神奈川をよむ」公演では長谷川伸の自伝随筆の講談作品化や県内各地の講談作品化を行ったほか、新作落語を中心とする「三遊亭天どん一門会」を開始しました。天どん一門の三遊亭わん丈は登竜門シリーズのメンバーでもあります。全国若手落語家選手権で優勝するとともに抜擢で真打昇進することも決まりました。同じく登竜門シリーズメンバーの一龍齋貞鏡は文化庁芸術祭新人賞を受賞するとともに令和5年度の真打昇進が決まりました。にぎわい寄席や正蔵一門会に出演している林家はな平は文化庁芸術祭優秀を受賞しました。 【課題】 コロナ禍で十分に実施できなかった子どもの創造性育成の取組は令和5年度には回復が期待されます。登竜門シリーズは今までは収益度外視で行なえましたが、経営回復の途上では、収益も考えつつ魅力ある若手演者の発掘を心掛ける必要があります。
		■にぎわい寄席等での前座修行の場、落語両協会の前座交流の場として若手演者育成に貢献します。	通年	実施	二つの協会の合同開催という当館独自の公演の機会を活用しました。	
	2 子どもの創造性育成の取組	□子ども寄席	2回	2回	子どもでも楽しめる演芸を集め、落語はネタ出でして広報しました。	
		□寄席体験プログラム	6回	7回	コロナの影響で例年とは異なる日程(10月、12月)となりましたが、計画以上の回数で実施しました。	
		□学校単位の団体鑑賞	2回	1回		
		□学校プログラム	3回	3回	横浜市芸術文化教育プラットフォームの事業である「学校プログラム」の伝統芸能分野のコーディネーターとして、小学校に向向き、落語を中心とした演芸鑑賞のプログラムを3回実施しました。	
	□子どもを対象としたワークショップや講座	4回	3回	横浜市の「はまっこ未来カンパニープロジェクト」に参加し、当館での落語鑑賞および小学校での体験講座を2日間実施しました。		
	■大衆芸能に関するワンストップ窓口機能や学生や生徒の受け入れを実施します。	通年	実施	職場体験として市立中学校3校の生徒を受け入れました。		

評価項目		令和4年度計画			実施状況		評価	
------	--	---------	--	--	------	--	----	--

I 文化事業	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価
--------	-------------	------	----	------	----	------	------

4 野毛地区のにぎわいづくり等への寄与(使命4)	1 地域のにぎわいづくりに寄与	□野毛で開催される一大イベント「野毛大道芸」との連携を継続します。	1回	1回	共催事業として9月に芸能ホール、小ホールで開催しました。	【成果】 野毛大道芸はコロナ禍の中、屋外で実施できず、3回目の館内での開催に協力しました。来春はコロナ禍前の実施形態に戻す予定です。さらに、「横浜にぎわい座利用促進委員会」と共催催事の申し込み手続きについて見直しを行いました。 また、YPAM2022開催に併せて横浜赤レンガ倉庫1号館の主催による「ヨコハマダダコレクション2022」の開催に協力しました。 【課題】 都市戦略との連携については、横浜アーツフェスティバルの見直しに伴う動向に注視していきます。	【評価する点】 ・コロナ禍により、野毛大道芸の野外実施が叶わず、野毛地区の飲食店においてもコロナと共存しながらの営業形態をとっている店舗が多い中、地域での連携やにぎわいづくりに関しては模索していただきました。 【更なる取組を期待する点】 ・大衆芸能の拠点施設として、野毛地区をはじめとする地域に親しまれる取組に加え、地元経済の活性化等につながる取組の強化を期待します。
		□野毛地区街づくり会の「横浜にぎわい座利用促進委員会」と共催で催事を開催します。	2回	3回			
		■ツイッター等を活用し「周辺情報」として野毛のイベントを紹介します。	通年	実施			
		■1階エントランスを地域に貢献する空間として、地域団体の要請に基づき活用を推進します。	要請に応じて	実施			
		■終演後に野毛の飲食店を楽しむ企画づくりのため「野毛飲食業協同組合」等と連携します。	実施	実施	4/9.5/14.11/5「野毛名物の落語会」開催。公演チラシに「野毛飲食業協同組合」のホームページのQRコードおよびマップを掲載。「野毛地区振興事業協同組合」作成の野毛の紹介動画をロビーで上映。		
2 他施設等との連携	□赤レンガ倉庫1号館など各財団所管専門施設の専門分野を活かして共同で事業を実施します。	1回	2回	9/10-11「第4回HOTPOT東アジア・ダンスプラットフォーム」で 振付家 きたまりと北尾豆の2作品(横浜赤レンガ倉庫1号館主催)、12/1-17「ヨコハマダダコレクション2022」で 新人振付家の作品、過去のコンペティション受賞者による作品など(横浜赤レンガ倉庫1号館主催)を会場提供し、共催しました。			
3 都市戦略との連携	□都心部の専門文化施設の一つとして、横浜アーツフェスティバルに積極的に参画します。	1回	1回				

5 様々な市民等が大衆芸能に触れる機会を創出(使命5)	1 視覚障がい者、聴覚障がい者の鑑賞体制充実へ向けてのステップアップ	■視覚や聴覚に障がいのある方も健常者と一緒に演芸を楽しめる環境づくりを目指して、研究を進めます。	実施	実施	従前から視覚障がい、盲導犬ユーザーの方の鑑賞を積極的に受け入れてきました。受付スタッフの案内誘導などのスキルも向上しています。	【成果】 様々な市民等が大衆芸能に触れる機会を創出するため、シニア割引や障がい者割引など各種サービスに取り組むとともにサービス介助士資格を有する職員を中心にスタッフに研修等を行いお客様に安心して来場いただけるように努めました。 【課題】 障がいの有無に関わらず一緒に演芸を楽しめる環境の在り方について更に研究を進めていきます。
	2 子どもが大衆芸能に接する機会をつくる(I文化事業3-2再掲)	■寄席体験プログラム、学校プログラム、子ども寄席などの実施(再掲)	(I文化事業3-2再掲)			
	3 高齢者が鑑賞しやすい施設運営	■インターネットを使用されないお客様にも配慮し、紙チラシの作成を継続します。	実施	実施	一時中断していた毎月の集合チラシ(写真付き、両面)も復活させました。	
		■シニア割引等を設定し、比較的購入しやすい価格帯に抑えます。	実施	実施	横浜にぎわい寄席で割引実施	
	4 障がいのある方にも利用しやすい環境づくり(VI その他5別掲)	■サービス介助士有資格者を現場に配置します。	実施	実施	有資格者が異動したため、4~5月は配置できませんでした。	
	■自主事業においては、盲導犬など補助犬の同伴受け入れ、障がい者および同伴者1名の割引料金を設定します。	実施	実施	横浜にぎわい寄席で割引実施		
5 外国人に向けた取り組み	■外国人のお客様に大衆芸能をお楽しみいただける企画を研究します。	実施	実施	在日大使館職員による施設見学を受け入れ、感想をヒアリングしました。		

令和4年度 横浜市芸能センター(横浜にぎわい座) 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価	
1 大衆芸能等の公演、練習、創作その他の活動のための施設の提供(使命2-2)	1 施設の提供	■大衆芸能利用を優先し、大衆芸能とそれ以外のジャンルでは申込開始日を変えて受け付けします。	実施	実施		【成果】 大衆芸能を中心に様々な文化活動の場を提供し、稼働率が芸能ホールは74%、のげ茶屋は48%となりました。 【課題】 ガイドラインの見直しや同業他施設等の動向を見極めながら現在休業中の「のげ茶屋」の再開について引き続き協議を進めます。	【評価できる点】 ・貸館においては今年度も厳しい状況ではありましたが、利用促進の努力を続け、前年度芸能ホール68%、小ホール49%の利用実績と比較すると芸能ホールが回復しています。 ・興行前の時間帯を活用した場の提供やバックステージツアーの実施など身近な演芸場としてご利用いただけるよう取り組みました。 【更なる取組を期待する点】 ・新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインが令和5年5月8日廃止されたことを受け、今後の動向を注視しながら、通常期に回復する運営内容を柔軟かつ臨機応変に対応できるように先行して検討してください。特に、野毛茶屋については再開を待ち望む声があるため、関係者との丁寧な調整をお願いします。 これまでの発想にとらわれない取捨選択や事業転換の検討も必要になると考えられます。	
		■利用は、午前10時～午後10時とし利用者からの要望による早入・延長利用は、近隣に配慮しながら可能な範囲で対応します。	実施	実施				
	2 貸館の運営	■貸館受付は午前10時から午後9時、にぎわいスタッフまたは事務室職員が対応します。	実施	実施				
		■貸館利用時は芸能ホール、小ホールともに舞台技術員1名を配置します。	実施	実施				
		3 利用促進及びサービスの向上	■寄席囲を使用した経常公演前後のホール活用(再掲)	(III施設運営5-1再掲)				
			■1階エントランスを地域に貢献する空間として、地域団体の要請に基づき活用を推進します。(再掲)	(III施設運営5-2再掲)				
■施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	(使命6定性①)	実施	アンケート結果 4.29/5.00					
□2階受付でお土産販売を行います。(年間売上目標)	100千円	339,957	コロナ禍で食品販売を中止しています。					
■のげ茶屋は、野毛飲食業協同組合と連携し、コロナ禍収束を見据え再開にむけた協議を継続します。	継続	継続協議中						
2 組織的な施設運営(様式10)	1 必要人材の配置と職能	■施設長(館長)	配置	配置		【成果】 年間を通じて計画どおり適切にスタッフを配置しました。また施設内全体研修をはじめスタッフのスキルアップを図るように研修等を実施しました。 【課題】 年々業務が複雑化し高齢化するにぎわいスタッフについて人員の確保がこれから課題になると考えています。		
		■経営に係る責任者	配置	配置	支配人1名			
		■事業に係る責任者	配置	配置	チーフプロデューサー(館長兼務)1名			
		■運営業務及び施設の維持・管理に係る責任者	配置	配置	管理運営チームリーダー1名			
		■事業担当者(3名)	配置	配置	4名			
		■運営管理担当者(3名)	配置	配置	3名			
		■公演表方統括(1名)	配置	配置	2名			
		■にぎわいスタッフ(約30名)	配置	配置	23名(最通人数は25±3名程度)			
	2 主要人材の能力担保	■専門職員研修	通年	実施				
		■MBO	通年	実施				
		■事業制作、経理、広報、人権、コンプライアンス等の組織内研修	通年	実施				
		■日常業務におけるOJT	通年	実施				
		□施設内全体研修会	2回	2回				
		3 施設全体の運営に対するアイデア・ノウハウの一層の活用(様式22)	1 経常公演前後のホール活用	□寄席体験プログラム(再掲)	(I文化事業3-2再掲)		【成果】 興行前などの時間を使い前座の太鼓練習の場として提供するほか、バックステージツアー等を実施し、身近な演芸場として感じていただけるように努めました。 【課題】 引き続き、皆様に施設を身近に感じられるよう取り組みます。	
□貸切公演(再掲)	(I文化事業3-2再掲)							
□撮影での貸出	2回			3回				
■ホール見学会	要請に応じて			実施	37回実施			
□バックステージツアー	5回		実施5回					
■前座の太鼓練習の場	要請に応じて実施		実施					
2 1階エントランスの活用	■地域に貢献する空間として、地域団体の要請に基づき活用を推進します。	要請次第で実施	実施					
3 配信事業	■主催興行の映像化を制作会社にアピールします。	実施	実施	独演会の映像化を制作会社と検討しましたが、収益見込みが困難で実現に至りませんでした。				
4 その他施設運営に関する事項	1 休館日の届け出		実施	実施		【成果】 業務の基準等に従い適切に実施しました。 【課題】		
	2 許認可及び届け出		実施	実施				
	3 目的外使用料の申請		実施	実施				
	4 財務状況の確認		実施	実施				

令和4年度 横浜市芸術センター(横浜にぎわい座) 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価			
Ⅲ施設管理	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価		
1 保守管理業務 (使命6)	1 日常点検業務・定期点検業務	■「指定管理者業務の基準」ならびに「同別添資料」に示された保守点検業務を着実に遺漏なく実施します。	実施	実施		【成果】 すべての来館者が、施設を安心・安全に利用できることを主眼に業務の基準に従い、刻々と更新される「横浜市文化施設における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」等の動向を正しく把握しながら特に空気環境の維持(換気)や各所消毒に重きを置きつつ各業務遺漏なく実施しました。	【評価できる点】 ・「横浜市文化施設における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」等に沿って、来館者に安心感のある運営を行うなど、安全管理意識の高さを評価します。 ・不具合発生時には設備業者、保守管理会社や管理組合と連絡調整を行い、市側とも迅速な状況共有が行われました。		
		■定期点検を各月2日程度保守点検日を設けて計画的に実施します。	実施	実施					
	2 施設及び設備の維持保全及び修繕	■点検を通して発見された軽微な不具合箇所について迅速に対応します。	実施	実施				【課題】 竣工から20年が経過し、舞台、空調、電気、EVなど各種設備の劣化が進行しています。2月に修繕を行った冷却塔1号機が冷暖房切り替え時に水漏れを起こすなど、早急な対応が求められています。小破修繕だけでは解決できないことは横浜市と丁寧に協議しながら適切に対応していきます。	【更なる取組を期待する点】 ・集客施設という性質上、今後も感染症や風水害に対する取組が求められます。現場で感じた課題等については横浜市と共有・協議を進めながら、柔軟かつ臨機応変な対応を期待します。 ・保守点検や小破修繕を引き続き確実に実施するとともに、施設の不具合情報については横浜市などの関係者と密なる共有をお願いします。 ・高齢者や障害者など様々な来場者に対するスタッフ全体の接遇スキルの維持・向上を期待します。 ・災害発生時に備えた体制の維持のため、訓練やマニュアルの検証等を引き続き継続して行ってください。
		■多額の費用や期間を必要とする修繕箇所や、耐用年数等により対応が必要とされる事案については横浜市所管課に報告します。	実施	実施					
	3 備品等の適切な管理	■備品等は、常に良好な状態に保ち、管理します。	実施	実施					
		■年1回、物品管理簿の棚卸を行い、物品が適切に管理されているか確認し、市に報告します。	実施	実施					
2 環境維持管理業務 (使命6)	1 清掃業務	■「指定管理者業務の基準」ならびに「同別添資料」に記載された環境維持管理業務を着実に遺漏なく実施します。	実施	実施					
		■施設の利用状況等について建物管理会社と緊密に連携を取りながら、利用者がいつでも快適に施設を利用できるよう実施します。	実施	実施					
	2 廃棄物処理及び環境への配慮	■施設から発生する廃棄物の発生抑制に努めます。	実施	実施					
	3 空気環境測定	■法令に従い、浮遊粉じん・二酸化炭素・一酸化炭素・温度・相対湿度・気流の空気環境の測定を2か月に1回実施します。	実施	実施					
3 保安警備業務 (使命6)	保安警備業務	■施設内の保安業務は、管理組合と十分な協議を行った上で実施します。	実施	実施					
4 防火・防災等 (使命6)	平常時の防災対策	■消防法に基づき、甲種防火管理者を選任した上で防災計画書を作成します。	実施	実施					
		■自衛組織を結成し、日常の防火・防災に努めます。	実施	実施					
		■横浜市防災計画に基づき、対応マニュアルをあらかじめ作成します。	実施	実施					
		■AEDを導入し、適切な管理及び職員への十分な操作研修を実施します。	実施	実施					
5 緊急時の対応 (使命6)	大規模災害への備え	■行政機関において災害対策本部等が設置された場合は、その指示に従うとともに、行政機関と協力し災害対応に協力します。	実施	実施					
		■大規模災害に備え、保存食や簡易トイレなど災害備蓄品を常備し適切に維持管理します。	実施	実施					
6 その他施設管理に関する事項	1 駐車場管理業務	■横浜にぎわい座専用として持つ33台分の機械式駐車場を安全に適切に管理します。	実施	実施					
	2 施設の管理を行う上で必要な資格者の配置	■甲種防火管理者 ■サービス介助士	配置 (I文化事業5-4再掲)	配置					

令和4年度 横浜市芸能センター(横浜にぎわい座) 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価項目		令和4年度計画		実施状況		評価					
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価				
1 指定管理料のみに依存しない収入構造(様式22)	1 自主事業収入	□主催公演200事業以上などを実施し、110百万円の事業収入を目標とします。	110百万円	未達成 89% ¥98,746,472	コロナ以降、高齢者や子ども世代の客足の回復が遅れています。	【成果】 自主事業収入はわずかに及びませんでした。利用料金収入は目標を達成しました。 【課題】 コロナ禍における目標設定が難しいです。主催事業の収益によって施設の収支バランスをとっている横浜にぎわい座にとって、いかに客足を回復させていくかが課題です。 【更なる取組を期待する点】 ・事業収入により収支の均衡を保ってきた横浜にぎわい座にとって厳しい状況が続きますが、新しい視点での支出抑止と収入安定化に向け健全な収支に近づけるための運営見直しについても、不断の検討をお願いします。	【評価できる点】 ・自主事業収入は目標額を到達できませんでしたが、主催事業などの誘致に取組み、利用料金収入が回復し目標達成したこと、舞台スタッフの人員見直しを行うことにより支出の抑制に繋がったことを評価します。				
	2 利用料金収入	□共催事業などの誘致等に積極的に取り組み、12百万円の利用料金収入を目標とします。	12百万円	達成 115% ¥13,802,550	コロナ禍が落ち着いてきたこともあり、目標を達成することができました。						
	3 その他の収入	□収録料、チケット受託販売、お土産販売などに取組み、70百万円の雑収入を目標とします。	70百万円	未達成 52% ¥367,184	コロナ禍において、食品販売を中止しています。						
2 経費削減等効率的運営の努力(様式22)	1 人件費の抑制	■サービスを低下させずに柔軟な人員配置を推進します。	推進	推進	職員の超勤時間は目標の47%で、平均月4.9時間です。	【成果】 職員の残業を減らし、舞台スタッフを公演数に応じた配置とすることで人件費(委託費)を抑制しました。 【課題】 経費削減策は限界に近づいていると考えています。					
	2 委託費の抑制	■前座育成と舞台技術員の配置抑制を併せて推進します。	推進	推進	公演数に応じて舞台技術員を配置するよう工夫しました。舞台監督の配置を取止め、予算から30%を削減しました。						
	3 印刷製本費の抑制	■広報手法の多様化にあわせ公演チラシの作成部数を抑制します。	抑制	抑制	集合チラシにすることで、印刷部数を削減し、予算から15%を削減しました。						
V 各種計画書・報告書の作成及び業務評価	業務の基準	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価				
1 日報、月報の作成・管理	1 日報、月報の作成・管理	■業務日報の作成	実施	実施		【成果】 業務の基準等に従い実施しました。 【課題】					
		■管理運営月等をモニタリングにおいて報告	実施	実施							
	2 事業計画書・事業報告書の作成・管理	■事業計画書・事業報告書の作成	実施	実施							
■事業計画に沿って成果が見える報告書を作成	実施	実施									
3 業務評価の実施	■自己評価	実施	実施								
VI その他	選定要項	取組内容	目標	年間実績	説明	自己評価	行政評価				
1 市の重要政策課題への対応(様式23)	1 個人情報保護についての取組	■当財団の定める「個人情報保護方針」等に基づき適切に対応します。	実施	実施	補聴器は感染症対策のため、貸出を停止しました。	【成果】 業務の基準等に従い着実に実施しました。 【課題】					
	2 情報公開についての取組	■ホームページ等で業務計画、業務報告、事業・施設の状況を積極的に提供します。	実施	実施							
		■当財団定める「情報公開規程」等に基づき適正に対応します。	実施	実施							
	3 人権尊重についての取組	■職員に対して人権に関する研修を実施します。	実施	実施							
	4 環境への配慮に関する取組	4 環境への配慮に関する取組	■施設の利用状況に合わせて不要な点灯や空調稼働を最大限抑止します。	実施				実施			
			■広報手法の多様化にあわせ公演チラシの作成部数を抑制します。	実施				実施			
			■利用者によるごみの分別状況を確認し分別の徹底を依頼します。	実施				実施			
5 障害者差別解消	■芸能ホールの車イス席や磁気ループシステムと貸出用補聴器、貸出用車イス、多目的トイレ、身障者用駐車スペース等の設備を整えます。 ■障がい者支援施設等へのアウトリーチ公演を実施します。	実施	実施								
6 男女共同参画	■男性・女性の別なく職員が活躍する職場づくりを行います。	実施	実施								
7 市内中小企業優先発注についての取組	■原則として業務委託と物品購入は横浜市「物品・委託等資格者名簿」に登録された企業に発注します。	実施	実施								
2 その他	1 保険及び損害賠償の取扱い	■施設賠償責任、動産総合、レジャーサービス施設の各種保険に加入	実施	実施	【成果】 業務の基準等に従い着実に実施しました。 【課題】						
	2 関係法令等の順守	■業務の基準等の定めに応じた関係法令を順守する。	実施	実施							
	3 市及び関係機関等との連絡調整	■事故や不具合時は速やかに報告し、随時共有する。	実施	実施							
■野毛町三丁目北地区ビル管理組合の会合等に参加します。		実施	実施								
■野毛地区まちづくり会等地域組織の会合等に参加します。		実施	実施								

令和4年度 横浜市芸能センター(横浜にぎわい座) 指定管理業務計画表兼評価表(自己評価・行政評価)

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】 年度末を除きコロナ禍の影響を受けた1年間でした。特に公演集客の期待できる7、8月と1月期の感染拡大が大きく、入場料収入は目標達成率89%に留まりました。支出の削減に努め、また施設利用料金収入が順調に回復したこと、文化庁の助成金の獲得等もあり、収支全体は改善しています。</p> <p>4月、5月と開館20周年記念事業を実施し、また野毛地区の飲食店や関係者との連携のもとに新たに「野毛名物の落語会」を開催するなど、これまで多くの演芸人、観客、地元を支えられながら歩んできた20年間に対して公演を通じて謝意を示すことができました。施設利用者、観客の感染症対策へのご協力があり、安心してご来館いただくこともできました。コロナ禍において学校プログラムや寄席体験プログラムへの学校からの期待が大きく、大衆芸能が次世代育成に果たす力についても実感することができた1年間でした。</p> <p>【課題】 3年間に渡り様々な経費の削減に取り組んできましたが、限界に近づいています。また施設、設備の経年劣化が更に進み、施設運営に直接影響が出かねない状況でもありません。令和4年度は大型の助成金等を獲得することができましたが、これらが終了する令和5年度以降の経営状況については更に厳しい状況となります。</p> <p>感染拡大防止を理由に中止してきたサービス(公演中の飲食、物品貸出など)の再開については、時間をかけながら丁寧に対応していく必要があります。</p>	<p>【評価できる点】 ・コロナ禍の影響を受けながら、支出削減に努め、利用料金収入の回復や積極的な助成金の活用を行うことにより、収支が改善したことを評価します。 また、公演の短時間化など、来場者の視点に配慮した運営を行いました。</p> <p>・開館20周年記念事業について、野毛地区と連携した企画の開催や長年出演している横浜にぎわい座にゆかりのある人気演者を集めた公演を実施し、4・5月の2か月平均入場者数が他の月と比べ約1,000人多い集客となり、大きな成果に繋がりました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・令和5年5月に感染症対策ガイドライン等が廃止され、コロナ禍以前のにぎわい座に戻りつつあります。落語、漫才その他の大衆芸能の振興を図る設置目的を効果的に達成できるよう、新たな事業やサービスを積極的に展開されることを期待します。 ・より多くの市民に大衆芸能の魅力を伝えていくことにより、横浜にぎわい座の役割を引き続き果たしていけるよう、各取組についてはしっかりと実績の評価・検証と改善を行いながら、今後の発展的な継続に向けた取組を進めてください。</p>